

まいづる
元氣人

夢はレスリングのオリンピック選手

明倫小学校2年

森脇花乃^{はなの}さん

7月22日～24日に東京で開催された「第33回全国少年少女レスリング選手権大会」2年生の部30^キ級で見事優勝した森脇花乃さん。男女混合の階級ですが、5試合のうち失ったのは1回戦の1ポイントのみ。全て10点差以上をつける「テクニカルフォール勝ち」という圧倒的な強さでした。これから活躍が期待される花乃さんに、レスリングの楽しさやこれからの夢を聞いてみました。

自然とレスリングになじむ環境の中に

花乃さんは幼稚園年長の5歳でレスリングを始めました。当時はまだなじみのなかったレスリングをなぜ始めたかという、中学生の兄がレスリングをやっていたことや父が柔道教室で指導しており、格闘技が身近にあったからだという。そんな格闘技一家の中で育った花乃さんは、もともと体を動かすことが大好きだったこともあり、市主催の「ちびっこレスリング教室」に参加したことがきっかけで「舞鶴レスリングクラブ」に通いたいと自分から言い出しました。週のうち5日は、1時間半～2時間の練習に励み、練習のない水曜日も休養ではなく父の教室で柔道をしているとか。

レスリングの魅力

レスリングクラブでは、最初に30分以上かけてランニングやストレッチをします。連続フリッジや後回りからの逆立ちを楽しくこなしてびっぴりしました。厳しい練習だったので、「練習は辛いけど」と聞いてみると、基礎練習も含めて「全部好き」。いろんな技を教え

てもらったのが楽しくてしかたないようです。一番の得意技は「片足タックル」。「相手に崩しを入れて、フェイントしてタックルに持ちこんで倒すのが楽しい。相手を横向きにさせるのがこつ」と笑顔で答えてくれました。レスリングと柔道、どっちが好きかと聞いてみると、「レスリング」と即答。なぜなら得意の「タックル」は柔道では反則を取られるから(笑)。

憧れの選手

練習熱心な花乃さんに、目標の選手を聞いてみると、はにかみながら「高谷惣亮選手(ロンドン・リオ五輪レスリング日本代表)」と答えが返ってきました。憧れの選手で、市内で開催されたレスリング体験イベントにゲストで来ていた高谷選手を見て、そのルックスと攻撃的なレスリングの大ファンになったそうです。全部「かっこいい」と花乃さん。もう一人は網野町(京丹後市)の教室に通う中学生の伊藤海選手。伊藤選手も片足タックルを得意として倒した相手をすぐローリングで回して女子選手の中では無敵と評判です。伊藤選手のような、「強い選手」になりたいと話してくれました。

将来の夢

まだ競技歴は2年半の花乃さんですが、試合でつぎつぎと好成績を残しています。まず今の目標は、今年優勝した「全国少年少女レスリング選手権大会」の5連覇です。初出場の今年も、「1回戦は緊張したが、後はいつもどおりの力を発揮できた。決勝も試合前の握手で『勝てる』と思った」と話してくれました。こんな頼もしい花乃さんもレスリングを始め

た当初は、年上の子と組んで負けるとすぐに泣く「泣き虫」だったそうです。「これからは技を研究されるので、新しい技を習得したり、得意なタックルに磨きをかける必要がある」と指導する三村先生。リオ五輪で3階級で金メダルを取った日本女子レスリング。花乃さんはテレビで試合を見て「最後まで諦めずに逆転してすごかった。私も最後まで諦めないようにしよう」と思ったそうです。

その先の夢はもちろん「オリンピックに出ること」。今、8歳。東京の次、2024年のオリンピックではその夢が実現しているかもしれないね。夢に向かって進んでください！

まいづる
花図鑑

vol. 122

北海道本州(日本海側)の山地の林縁などに生える多年草。茎は四角で高さは50～150センチ。

葉は対生し、三角状広卵形で長さ6～15センチで縁には鋸歯があり先は尖る。秋、枝先に円錐形の花穂を出し、暗紫色の小さな唇形花をたくさんつける。

名前の由来は「黒花引起し」で、弘法大師が諸国行脚の際、重病人に飲ませたら起き上がったという伝説による。全草が苦く、今も健胃薬として使用されている。

【協力】瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)

クロバナヒキオコシ
(シソ科)

見ごろ 9～10月頃

